

町村の発展のため財源の確保に取り組む

町村の振興を考える会会長 山口 俊一

ただいまご紹介をいただきました「町村の振興を考える会」の会長を務めさせていただいております徳島県の山口俊一でございます。

今年もこうして全国町村長大会に参加させていただいたわけですが、かつてこのNHKホールは、3階席まで一杯でございました。現在は、市町村合わせて1,700余り、しかも、その大半が過疎の指定町村です。なかなか町村の疲弊に歯止めがかからないという状況の中で有志が相集い、「町村の振興を考える会」という会を結成させていただきました。

先ほどからお話がありましたように、何とか地方創生の実現に向けた取組を、といった声がいま大きく上がってきております。この地方創生に関しましても、自由民主党の中で一昨年からいろいろと議論を重ねて参りました。その結果が、「まち・ひと・しごと創生本部」、そして二つの法律（まち・ひと・しごと創生法、改正地域再生法）の成立に繋がってきたわけであります。

ただ、地方創生の新型交付金につきましては、もっと大きな額を期待しておりました。また、地方にご負担のないような交付金というものはできないだろうか、とも思っております。

これからの5年間は、地方創生に向けた戦略でありますから、ぜひとも継続してしっかりと交付できるように、金額あるいは使い勝手の良さを追求していくこと、さらには、地方のご負担の分を地方財政対策で考えていくことが必要だろうと思っております。

そして何よりも大事なものは、地方創生の実現あるいはTPP対策のために、町村長の皆様方が自由に使えるような、助成金の確保でございます。これから私どもは、議連としても党としても、あるいは国会としても、その確保に向けて取り組んでいきたいと考えております。

いよいよ、予算と税の時期が迫っております。一番大事な基幹税である、固定資産税の問題があります。さらにはゴルフ場利用税、車体課税もあります。これらの税収をお互いに連携し、守っていくことによって、これまでの疲弊に歯止めをかけていきたいと思っております。いまここで押しとどめることができなければ、おそらく、そういった財源確保の機会は二度とないだろう、という覚悟を持って、取り組んで参りたいと考えております。

どうかこれまで以上のお力添え、また、大きなお声を上げていただき、皆さんと共に、尽力させていただきたいと考えております。改めまして、本日の全国町村長大会のご盛会をお祝い申し上げますとともに、皆様方のご活躍によって、各町村が大いに発展していきますよう、ますますのご活躍を心からお祈りし、ご挨拶に代えさせていただきます。